

第七十四回帝國議會  
衆議院  
宗教團體法案委員會會議錄(速記)第三回

會議

昭和十四年三月一日(水曜日)午後二時二十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 安藤 正純君

理事北 吟吉君 理事長井 源君

理事世耕 弘一君 理事立川 平君

鶴見 祐輔君 大島 寅吉君

林 平馬君 紫安新九郎君

藤田 若水君 作田高太郎君

末松偕一郎君 石坂 養平君

加藤 知正君 高見 之通君

曾和 義弼君 松山常次郎君

河上 哲太君 赤松 克麿君

鈴木 文治君 椎尾 辨匡君

三田村武夫君

出席國務大臣左ノ如シ

文部大臣 男爵荒木 貞夫君

內務大臣 侯爵木戸 幸一君

陸軍大臣 板垣征四郎君

出席政府委員左ノ如シ

外務政務次官 清水留三郎君

外務參與官 箸本 太吉君

內務政務次官 漢那 憲和君

內務參與官 中井 一夫君

內務省警保局長 安藤狂四郎君

陸軍參與官 中井川 浩君

海軍政務次官 松田竹千代君

海軍大佐 岡 敬純君

文部政務次官 小柳 牧衛君

文部省宗教局長 松尾 長造君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

宗教團體法案(政府提出、貴族院送付)

○安藤委員長 ソレデハ開會致シマス、發言通告ノ順ニ依リマシテ、最初ニ鶴見祐輔君ノ御質問ヲ願ヒマス

○鶴見委員 私ハ本案ニ關シマシテ先ツ文部大臣ニ御尋致シタイノデアリマスガ、此ノ宗教團體法案ガ初メテ明治三十二年議會ニ提出致サレマシテヨリ四十年ノ長キニ互ツテ屢、困難ナ經過ヲ履マレタニ拘ラズ、遂ニ今回ハ貴族院ヲ通過致シ、本院ニ送付ニ相成リマシタコトハ、文部大臣初メ文部當局各位ノ非常ナ御努力ノ結果ト私ハ考ヘルノデアリマシテ、殊ニ本案ガ此ノ際通過ヲ致シマシテ成文ト相成リマスコトヲ衷心ヨリ希望致ス一人デアリマス、斯ノ如キ重大ナル法案デアリマスルガ故ニ、私ハ此ノ法

案ニ關シテ先ツ文部大臣ニ御尋致シタイノデアリマスガ、ソレハ此ノ法案ヲ今期議會ニ御提出ニナツタ理由デアリマス、即チ只今支那ノ地ニ於テ皇軍ガ海陸空ト力ヲ協セテ奮闘シテ居リ、國內ニ於テ洵ニ緊張シタ國民意識ヲ以テ闘ツテ居ル際、此ノ重要ナル宗教團體法案ガ提出致サレマシタニ付キマシテハ、是ガ單ニ從來四十年間屢、提出サレテ不成立ニ終ツテ居ツタカラ本年モ御提出ニナツタノカ、或ハ今日ノ如キ重大ナル時局デアルガ故ニ、特ニ本案ノ通過ヲ必要ト痛感致サレテ御提出ニ相成ツタカラ御伺致シタイノデアリマス

○荒木國務大臣 本案提出ノ理由ハ、本會議ニ於テ茲ニ此席ニ於テ御説明申上ゲマシタヤウナ理由デアリマシテ、ソレニ依ツテ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマスルガ、尙ホ今御尋ノ二ツノ點ニ付テハ、第一ニ今マデノ我國ニ於ケル宗教行政ハ其ノ基礎ガ甚ダ薄弱デアツテ、其ノ爲ニ或ハ淫祠邪教ノ取締

ガ困難デアリ、或ハ我國ニ於ケル活動宗教ガ未ダ以テ其ノ代表的ノ位地ヲ認メラレナイ、幾多宗教行政上ニ不便ガアルコトガ一ツデアリマス、故ニ之ヲ整備スル必要ガアル、第二ハ御承知ノ如ク未曾有ノ重大時局ニ遭遇ヲ致シマシテ、斯様ナ時期ニ兎角起リ易キ人心ノ動搖、又之ニ伴フ幾多如何ハシキ淫祠邪教ノ出現、又斯様ナ際ニハ時ニ歴史ノ示スガ如ク一大宗教家ノ現出ガアツテ、混亂セル宗教ノ上ニ新生面ヲ與ヘルト云フヤウナコトモ考慮セラレル等、是等ヲ考慮致シマシテ、茲ニ第一ハ我國ニ於ケル人心ノ安定、宗教ヲ基礎トシテノ教化、淫祠邪教ノ取締等ヲ第一トシタノデアリマス、第二ハ時局ニ際シテ大陸方面ニ對スル我が宗教界ノ活躍ガ、過去ノ大陸ニ於ケル歐米ノ宗教的活躍ニ比シテ甚ダ遺憾ナ點ガ多イノデアリマスノデ、今ヤ東亞ノ新秩序建設ニ際シテ宗教家ノ大ナル活躍ヲモ必要トスル

ス様ナ次第デ、一方ニ於テ保護ヲシ、一方ニ於テ監督ヲシ、更ニ進ンデ是等ヲ助長スルト云フヤウナコトノ爲ニ本案ヲ提出致シタノデアリマス、詳細ハ提案ノ理由ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○鶴見委員 只今文部大臣ノ詳細懇切ナル御説明ニ依リマシテ、本案ガ特ニ此ノ際提出セラレタル理由ガ明ニナツテ參ツタノデアリマス、即チ一ツハ宗教行政上ノ色々ノ

付託議案  
宗教團體法案(政府提出、貴族院送付)

缺陷ヲ補充セラレテ、國內ニ於ケル人心ノ安定ヲ圖リタイト云フ御考デアリ、第二ハ此ノ際東亞新秩序ノ建設ニ邁進シテ居ル我が日本民族ノ大陸方面ニ於ケル活動ニ便宜ナラシメル爲ニ、殊ニ宗教家ノ活躍ガ歐米各國ノ宗教家ノ活躍ニ比シテ遺憾ノ點ガアルカラ、此ノ活躍ヲ必要トスルト云フ立場カラ御提案ニナツタト云フコトヲ伺ヒマシテ、本案ガ此ノ際提出サレタ理由ガ洵ニ明瞭ニナツタコトヲ欣快ト致スノデアリマス、斯ノ如キ事情カラ本案ガ提出サレマシタモノデアルト致シマスナラバ、本案ハ名ハ宗教團體法案デアリマシテ、一見シテ國內ノ宗教行政上ノ法案デアルガ如ク見エマスルケレドモ、其ノ含蓄スル所ノ意義ニ於キマシテハ、時恰モ歴史有ツテ以來初メテト云フ如キ此ノ際デアリマスルカラ、此ノ聖戰貫徹ノ目的ノ爲ニ國民ノ總力ヲ動員致サナケレバナラスト云フ必要カラ起ツテ居ルモノト致シマスレバ、隨テ本宗教團體法案ハ、國內ノ事情ノミカラデナク、更ニ東亞新秩序建設ニ貢獻シナケレバナラスト云フ大局的ノ觀點カラ之ヲ眺メナケレバナラスト思フムデアリマス、其ノ觀點カラ吾々ガ本案ヲ眺メマス場合ニ、第一ニ私共ノ疑問トナツテ居リマスルノハ、本案ノ第一條ニ於キマ

シテ、「本法ニ於テ宗教團體トハ神道教派、佛教宗派及基督教其ノ他ノ宗教ノ教團」云々トアル點デアリマス、即チ只今文部大臣ノ御話ニナリマシタヤウニ、我が日本ノ宗教家ノ大陸ノ活躍ヲ期待スル、又貴族院ニ於ケル宗教團體法ノ特別委員會ノ御説明ノ中ニ於キマシテモ、「愈、國ノ總力ヲ擧ゲテ帝國所期ノ目的達成ノ任ヲ盡スニ役立ツコトト存ジマス」、斯様ナ御話ガアルノデアリマス、然ラバ斯ノ如キ觀點カラ本法案ヲ眺メマス時ニ、私共ガ大キナ疑問トシテ御伺フ致シタイト思ヒマスコトハ、此ノ第一條ノ中ニ三大宗教ヲ御擧ゲニナリマシテ、世界ノ三大宗教デアル回教ヲ御擧ゲニナラナカツタ理由ヲ伺ヒタイノデアリマス、勿論之ニ關シマシテハ、既ニ貴族院ニ於テ屢、御答辯ニナツテ居リマスルケレドモ、尙ホ本委員會ニ於テ大臣カラ直接御説明ヲ戴キタイト思フノデアリマス

○荒木國務大臣 本法案ノ目的トスル所ガ、單ニ大陸經營ノ爲バカリデハナクシテ、我國ノ人心ノ安定ニ重點ヲ置イテ居ルノデアリマス、宗教ハ御承知ノ如ク極メテ人心ノ機微ニ反映スルモノデアツテ、一タビ宗教行政ヲ誤リマスル時ニ、幾多ノ不幸ナル事ガ、或ハ集團トシテ起リ、個人的ニ起ツテ

居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、最近ニ於テモ斯様ナ例ハ幾多アルノデアリマス、過去ノ歴史ヲ眺メマシテモ、斯様ナ例ハ非常ニ多イノデアリマス、就中我國ノ宗教行政ト致シマシテハ、又信仰ノ中心ト致シマシテハ、大イニ考慮ヲ拂フベキ特殊ナル國體ニ吾々ガ生ラ享ケテ居ルコトヲ考ヘネバナラスノデアリマス、我國ノ宗教ハ、憲法第二十八條ニ依ツテ其ノ自由ヲ御許シナツテハ居リマスルケレドモ、特ニ二ツノ制限ヲ御加ヘニナツテ居リマス、更ニ國ノ宗祠トシテノ神社ニ對シマスル國民ノ履ムベキ道モ、嚴トシテ存シテ居ルノデアリマス、斯様ナ國柄ハ恐ラクハ世界ニ殆ド其ノ比ヲ見ナイノデアリマスカラ、我國ノ宗教行政ハ最モ重要ナ問題デアリ、最モ慎重ニ致サナケレバナラスコトデアルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ人心ノ機微ヲ動カス所ノ、而シテ其ノ運用ニ依ツテハ效果ガ非常ニ多イガ、一步誤レバ非常ニ害ノアル此ノ重要ナ宗教ヲ取扱フ上ニ於テハ、總テノ雜念ヲ排シテ、極メテ純眞ナ意味ニ於テ立法ヲスル必要ガアルノデアリマス、之ヲ一步誤リマスル時ニハ、我國ノ宗教行政ハ外國ノソレト違ツテ、非常ニ大キナ困難ニ遭遇スルノデアリマス、故ニ本法立案ニ當リマシテハ、

過去ニ於ケル我國ノ宗教ヲ悉ク日本化シテ、神社ニ對シマシテモ日本人トシテノ道ヲ履ムノニ何等躊躇シナイ、躊躇シナイデハナイ、履マネバナラスト云フ十分ナル心得ヲ以テ、而シテ信教ノ自由ノ上ニ、自己ノ安心立命ヲ得、又自己ノ内的活動、外的活動ニ於テ十分ナル所ノ安心ヲ得ル、斯ウ云フ點ヲ考ヘマスルト、我國ニ於ケル過去ノ宗教ノ活動狀態ヲ趣旨トシテ立ツテ居ルノデアリマス、斯様ニ考ヘマスルト、我國ニ於テ明治以來、殊ニ基督教ノ禁ヲ解カレマシテ、信教ノ自由ヲ御許シニナツテ以來、先般差上ゲマシタヤウナ表デ御覽ニナルヤウニ、神道——所謂宗教神道、佛教、是ガ明治以來其ノ點ニ於テ一番活躍ラシ、基督教ハ解禁以來未ダ其ノ活動ガ十分デナイ爲ニ、此ノ立法マデニハ代表的ノ名稱ヲ用ヒテ居ナイノデアリマス、神道ト佛教ノミデアリマス、併シナガラ基督教ノ今日ノ形勢ハ、立派ニ我國ノ基督教トシテ、過般英吉利ノ聖公會ノ「ピショップ」ノ決議ニ對シテ反對ヲシタ如キ、立派ナ態度ヲ執ツテ、我國ノ宗教トシテノ地位ヲ明ニシテ居リマス、故ニ此ノ基督教ヲ、既ニ四十万カラノ信徒モアリマスシ、此ノ點ニ對スル教義モ明ニナツテ居ルト云フノデ、茲ニ今回掲ゲタ次第デアリマス、

其ノ他ノ宗教ハ、宗教ソレ自體トシテハ、

亞細亞ノ同胞ノ中ニハ幾多ノ信者モアルト

思ヒマス、或ハ滿洲ニ於ケル紅十字教、或

ハ蒙古ニ於ケル喇嘛教、或ハ支那ニ於ケル

所ノ道教、密教、而シテ中央亞細亞ヘ掛ケ

テ亞細亞民族ノ間ニ非常ナ信仰ヲ得テ居リ

マス所ノ同教、色々アリマスルガ、遺憾ナ

ガラ我國ニ於ケル宗教活動ノ過去ニ於テハ

見ルベキモノナク、又是ガ我國ニ傳來致シ

マシテ活動ヲ始メテ、果シテドウ云フ位地ニ

アルカト云フコトハ、全ク未知ナ問題デア

リマス、故ニ十分ナル活動ノ範圍ガ許サレ、

善意ニ活動サレテ差支ナイノデアリマス、

之ニ對シテ何等ノ差別モ設ケテ居ラスノデ

アリマス、ガ此ノ立法ニ當ツテハ、只今申

述ベタヤウニ我が國內ニ於ケル活動狀態ヲ主

トシテ立案ヲサレテ居リマスルガ爲ニ、回

教其ノ他ノ世界ニアリマスル所ノ宗教ニ對

シテハ、茲ニ名稱等モ掲ゲテ居ラナイノデ

アリマス、其ノ他ノ宗教團體ノ中ニ含有セ

ラレテ居リマス、其ノ活動ニ對シ、又是等

ニ對スル我が國民ノ諸般ノ方面カラ、角度

カラ見マシタ活動ニ付テハ、何等障礙ハナ

イ、斯ウ云フ風ニナツテ居ルノデアリマス、

以上立法ノ精神ヲ能ク御諒承下サイマスナ

ラバ、今ノ點ハ十分御諒承願ヘルト思ヒマ

ス

### ○鶴見委員

只今ノ詳細ナル御説明ヲ伺ヒ

マシテ、御趣旨ガ次第ニ明トナツテ參ツタ

ノデアリマスガ、貴族院ノ委員會ニ於テ大

臣ノ御答ニナツテ居リマスル中ニ、回教ハ

當然第一條中ニ其ノ他ノ宗教ノ範圍ノ中ニ

含マレテ居ルノデアルト云フ風ナ御趣旨ニ

承知致スノデアリマス、サウ致シマスストソ

レヲ明文ニ掲ゲルカ否カ、斯ウ云フ問題ニ

ナツテ來ルト思フノデアリマスガ、只今ノ

御話ニ依リマスルト、從來日本ニ於ケル活

動ノ見ルベキモノガナカツタト云フコトガ

一ツト、又將來基督教ノヤウニ純粹ナ日本

的ナモノニナル時ヲ待チタイ、斯ウ云フ御

意見ノヤウニ伺ツタノデアリマス、併シ是

モ申サバ程度ノ問題デアリマシテ、本質的

ナ絕對的ナモノトハ存ゼラレマセヌカラ、

程度ノ問題デアルト致シマスナラバ、私ハ

其ノ他ノ觀點カラ今日ノ非常時局ヲ御眺メ

ヲ戴イテ、殊ニ現文部大臣ノ如ク、大局カラ

物ヲ御考ニナル方ニ於カレマシテハ、次ノ

ヤウナ諸點モ御考ヲ戴キマスナラバ、只今

ノヤウナ國內ニ眺メテ程度ノ問題ト云フ

モノガ、又變更ヲ蒙ルノデハナイカト考ヘ

ラレルノデアリマス、即チ昭和十年ニ宗教

法案ガ提案サレマシタ時マデハ、回教ト云

フ文字ヲ法案ノ中ニ入レル必要ハナカツタ

ト思フノデアリマス、然ルニ昭和十年以後

四年ノ日子ヲ經マシテ今日ニナツテ參リマ

スルト、茲ニ回教ニ關シテハ種々ナル變化

ガ國際的ニモ、又國內的ニモ發生ヲ致シテ

居ルト考ヘラレルノデアリマス、其ノ一ツ

ハ、昭和十年ノ當時ニ於キマシテハ、回教

ハ國內ニ於テ何等禮拜堂ノ如キモノモ持ツ

テ居ラナカツタノデアリマスガ、今日ニ於

キマシテハ、既ニ東京及ビ神戸ニ於テ禮拜

堂ヲ持ツテ居ルノデアリマス、其ノ數ハ少

イデアリマセウ、併シナガラ程度ノ問題ト

私ノ申シマス譯ハ、若シ一旦日本ガ國法

ヲ以テ回教ヲ公認スルト云フコトガ方針

トシテ確定致シマスナラバ、恐ラクハ禮

拜堂ノ數ノ如キハ非常ナ勢ヲ以テ増加致ス

ノデハナイカト思ハレルノデアリマス

ルカラ、單ニ一ツデアルトカ、十デア

ルトカ、百デアルトカ云フコトダケガ問題

ニナルノデハナクシテ、既ニ其ノ教會建設

ノ第一歩ヲ印シテ居ルト云フ意味ニ於テ、

是ハ意味ノアルコトト思フノデアリマス、

第二ニ更ニ國際的ノ觀點カラ之ヲ考ヘマス

ト、昭和十年ノ時ニハ吾々ハ回教ト國際的

ニハ牽連スル所ガ洵ニ少カツタノデアリマ

スガ、只今吾々ガ亞細亞ニ於ケル聖戰ニ邁

進シテ居リマスル今日ニ於テハ、非常ニ重

大ナル國策的ノ必要ヲ生ジテ居ルト思フノ

デアリマス、即チ全世界ニアリマスル所ノ

三億七八千万ニ及ブ回教徒ガ殆ド擧ゲテ東

洋民族デアルト云フ事實、又此ノ回教徒ガ

其ノ宗教以外ニ於テ、東洋民族タルノ事實

カラ、歐羅巴民族ノ爲ニ種々ナル迫害ヲ被

ツテ居リ、之ニ對スル憤激ノ情ヲ持ツテ居

ツテ、此ノ亞細亞ノ一角ニ輻起シタル日本

ニ對シテ非常ナ信頼ト憧憬ノ念ヲ持ツテ居

ルト云フ事實ヲ考ヘ併セマスルト、今日ノ

日本ノ聖戰貫徹ノ目的ノ爲ニ重大ナル意義

ヲ持ツテ居ルト思フノデアリマス、何トナ

レバ、只今大臣ハ、此ノ回教ノ外ニモ種々

ナル宗教ガアルト云フコトヲ御述ニナリマ

シタ、色々ナ宗教ノ名前ヲ御擧ゲニナリマ

シタケレドモ、私共ノ考カラ申セバ、此ノ

他ノ、只今大臣ノ御擧ゲニナリマシタ宗教

ハ、之ヲ回教ト同列ニ置イテ比較スルコト

ハ、回教ニ對シテ聊カ氣ノ毒デハナイカト

思フノデアリマス、其ノ信徒ノ數ニ於テ、

既ニ基督教ニ次グ所ノ大衆ヲ擁シテ居リ、

其ノ信仰ガ一貫シテ世界ノ總テノ信徒ノ間

ニ行渡ツテ居ル此ノ回教徒ノ事實ト云フモ

ノハ、他ノ多クノ群小宗教トハ異ルモノガ

アルノデハナイカ、デアリマスカラ、回教

徒ヲ國內ニ持ツテ居ナイ所ノ基督教徒デア  
リマス歐米各國ニ於テモ、舉ゲテ悉ク回教  
ヲ平等ノ取扱ヲ致スノミナラズ、成文上之  
ヲ認メテ居リマスノハ其ノ點ニアルノデハ  
ナイカト思フノデアリマス、隨テ今回初メ  
テ日本デ此ノ劃期的トモ言フベキ宗教團體  
法ガ成立致シマス時ニ、回教ト云フ文字ガ  
入ラナイコトハ、實ハ之ヲ世界的ニ眺メレ  
バ、削除サレタ、斯ウ云フ感じニナルト私  
ハ心配致スノデアリマス、當然入ルベキモ  
ノガ省カレタ、即チ入ルノニ困難ヲ持ツテ  
居ルモノヲ無理ニ挿入スルト云フ感じヨリ  
ハ、當然入ルベキモノガ削除サレタノデア  
ルト云フ感じヨ、世界三億七八千万ノ回教  
徒ニ與ヘルト云フコトガ、日本ノ大乘のナ  
立場カラ言ツテ非常ニ考フベキ事デハナイ  
カト思フノデアリマス

私ハ甚ダ此ノ際餘談ノヤウデアリマスガ、  
御辛抱ヲ願ヒマシテ御聽キ戴キタイ一ツノ  
事ガアルノデアリマス、ソレハ大正十一年、  
私ハ廣東デ當時非常ナ危險ナ戰ヲシテ居ラ  
レタ孫逸仙ニ會見致シマシタ時ニ、孫逸  
仙ハ斯ウ云フコトヲ私ニ言ハレタコトヲ  
今日モ耳ニ殘シテ居リマス、彼ハ申シタ、  
日本ガ日露戰爭ニ勝ツタ時、自分ハ丁度歐  
羅巴カラ「エジプト」ヲ通ツテ歸ツテ來タノ

デアルガ、日本ト云フ名前ヲ知ラナカッ  
タ「エジプト」人デスラ、又印度ニ來レバ印  
度人「シンガポール」ニ來レバ「マレー」人、  
支那ニ來レバ支那人、悉ク日本ニ同情シ、  
喜ンダノハ何デアアルカト云ヘバ、多年壓迫  
セラレタ所ノ所謂有色民族ガ、初メテ日本  
ノ戰勝ノ爲ニ頭ヲ上ゲテ、是デ新シイ時代  
ガ來ルノダト言ツテ非常ニ皆喜ンダ、自分  
ハ多年日本ノ同情者デアアル、日本ノ崇拜者  
デアツタカラ、常ニ日本ノ國內ニ於テ日本  
ノ志士ト交リ、日本ノ事情、日本精神ヲ理  
解スルコトニ努メテ居タ、然ルニ何ゾ、今  
日ニ於テ日本人タル君ニ言フガ、是ホド日  
本ニ同情ヲシ、是ホド日本ノ爲ニ圖ツテ居  
ツタ吾々ハ、近來ノ日本ニ非常ニ失望シタ、  
日本ハ吾々支那民族ヲ助ケヨウト云フ氣持  
モナイ、自分ハ露西亞ニ勝ツタノダカラ、  
西洋民族ト同ジダト云フ感じヲ持ツテ  
吾々ヲ眼下ニ見下ス爲ニ、吾々支那ノ新  
興勢力ト云フモノハ最早日本ニ頼ラス、  
自分ハ是カラ後ハ露西亞ニ頼ル決心ヲ  
シテ居ルト云フコトヲ大正十一年ニ言ツ  
テ居ラレタノデアリマス、是ハ甚ダ餘談  
ノヤウデアリマスガ、私回教ノ問題ニ  
付テ大臣ニ御考慮ヲ願ヒタイト存ジマスコ  
トハ、文字ハ僅ニ二ツノ「回教」ト云フ文字ヲ

入レルカ入レナイカデアリマスガ結果ハ只  
今孫逸仙ノ事例ヲ申上ゲマシタヤウニ、非  
常ニ大キナ精神的ナ影響ヲ持ツノデアリマ  
ス、今三億七八千萬人ノ回教徒ガ、此ノ宗  
教團體法案ニ望ヲ囑シテ、之ニ依ツテ日本ガ  
東洋民族タル回教徒ニ對シテ非常ニ明快ナ  
ル理解ト同情トヲ持ツカドウカノ試金石ト  
シテ眺メテ居ル際デアリマスカラ、是ハ單  
ニ一ツノ技術的ナ問題デナク、又單純ナル  
國內的ノ問題ノミデナイ、若シ國內的ニ之  
ニ付テノ御反對ノ方ガアルナラバ、此ノ聖  
戰貫徹ノ精神ヲ體得セラレマシテ、ドウゾ、  
小異ヲ捨テテ大同ニ就カレテ、此ノ目的ノ爲  
ニ合流シテ戴キタイト思フノデアリマス、  
私ガ今斯様ナコトヲ、長々ト申上ゲマシタ  
ガ、其ノ理由ハ、技術的ニ考ヘマシテ、國  
内法トシテハ回教ト云フ文字ヲ入レル入レ  
ナイニ付テハ、今大臣ノ御話ノヤウナ點ガ  
ゴザイマセウ、併シナガラ今日吾々ハ國內  
ニ於テ或ハ生産擴充、物資動員計畫等、有  
ユル力ヲ盡シテ此ノ聖戰貫徹ノ目的ニ邁進  
シテ居ル際デアアルカラ、而モ此ノ際ノ議會  
ニ提出サレタノデアリマスカラ、總テノモ  
ノガ此ノ目的ノ爲ニ一貫シタ途ヲ辿ツテ行  
カナケレバナラス、其ノ立場カラ考ヘルナ  
ラバ、此ノ回教ノ二字ヲ入レルカ入レナイ

カハ非常ニ重要ナ問題デアアル、現ニ内容的  
ニ洵ニ重大ナル問題デアアルカラ、今日軍部  
大臣ノ御出席ヲ求メテ居リマス故ニ、私ハ  
此ノ機會ニ於テ軍部大臣ニ御同致シタイ點  
ガアルノデアリマス、ソレハ此ノ宗教團體  
法案ノ中ニ回教ト云フ文字ヲ入レルカ入レ  
ナイカト云フコトヲ御尋致スノデハナイノ  
デアリマス、ソレハ主管大臣タル文部大臣  
ノオ仕事デアリマス、私ガ御同致シタイト  
思ヒマスコトハ、此ノ東洋ニ於ケル聖戰貫  
徹ノ爲ニ、回教徒ノ同情ト尊敬トヲ集メル  
ト云フコトハ、支那ニ於ケル國軍ノ作戰上  
有利デアアルカドウカ、又占領地域內ニ於  
テ、多數ノ回教徒ヲ包容シテ居ル支那大陸  
ノ治安維持方面カラ云ツテモ、是ガ必要デ  
アルカ否ヤ、殊ニ回教徒ハ、御承知ノヤウ  
ニ、共產黨ニ熾烈ニ反對ヲシテ居ル信徒デ  
アリマスルガ故ニ、謂ハバ防共戰線ノ先頭  
ニ立ツテ居ル人々デアリマスルカラ、日本  
ノ國策デアアル防共ト云フ精神カラ申シマシ  
テモ、又當面直接ノ軍事ノ必要カラ申シマ  
シテモ、回教徒ノ同情ヲ得ル得ナイガ、軍  
事上ノ立場カラ言ツテ大キナ關係ガアルノ  
デハナイカト存ジマスルノデ、其ノ點ニ付  
キマシテ陸軍大臣ニ、又其ノ次ニ——マダ  
御出席ガナイヤウデアリマスガ、海軍當局

モ御居デノヤウデアリマスカラ、海軍大臣ノ御意見ヲ御同致シタイト思フノデアリマス、實ハ文部大臣以外ノ各省ノ大臣及ビ關係者ニ御出ヲ戴イテ居リマスルノデ、時間ノ都合上、或ハ他ニ御用ガアルカト心配致シマスルカラ、先ヅ軍部大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○安藤委員長 今日ハ海軍大臣ト外務大臣ハ他ニ差支ガアツテ出席ガ出來ナイサウデアリマスカラ、陸軍大臣ガ出席サレテ居リマスノデ暫ク其ノ方カラ御答辯ヲ願ヒマス

○板垣國務大臣 只今御尋デアリマスガ、回々教ガ色々ナ意味ヲ以チマシテ重大ナル關係ヲ持ツト云フコトニ付テハ御同感デアリマス

○松田政府委員 只今陸軍大臣ヨリ御答辯ニナリマシタ通り、海軍ト致シマシテモ、世界ノ大宗教ノ一デアル回教ヲ重視シナケレバナラスト云フコトニ付キマシテハ全然同感デアリマス

○鶴見委員 只今ノ陸海軍兩當局ノ御答辯デ、私ノ希望シテ居ル範圍ニ於ケル事情ガ明瞭ニナツテ來タト思ヒマスノデ、更ニ進シテ外務大臣ニ御尋致シタイノデアリマスカラ、大臣ノ御出席ガ不可能デアリマスルナラバ、幸ヒ政務次官ガオ居デアリマス

ルカラ、政務次官カラ御答辯ヲ戴キタイト存ジマス、ソレハ何デアルカト申シマスルト、此ノ「回教」ト云フ文字ヲ入レルカ入レナイカト云フコトガ、直接外交上ニ支障ヲ生ジテ居ルト云フ事實ガアツタカニ私共ハ承知致シテ居ルノデアリマスルガ、ソレガ果シテ事實デアルヤ否ヤト云フコトヲ只今御尋スルノデハナイノデアリマス、私共ノ承知シテ居ル所ニ依リマスレバ、「エーメン」王國ノ王子ガ日本ニ參リマシテ交渉致シマシタコトハ、此ノ通商條約ニ先ダチ、其ノ前提條件ト致シテ回教ト云フモノヲ承認シテ貰ヒタイ、公ニ認メテ貰ヒタイト云フコトヲ希望サレタカニ伺ツテ居ルノデアリマス、然ルニ日本ト致シマシテハ、マダ正式ニ回教ヲ認メルコトガ出來ナカツタモノデアリマスルカラ、隨テ其ノ第一ノ要求モ容レラレナカツタ「エーメン」王國ノ王子ハ、通商條約ヲモ作ルコトナシニ歸國セラレタト云フコトデアリマス、更ニ「サウデイ・アラビヤ」トノ關係ニ於キマシテモ、同じ理由カラ只今尙ホ無條約狀態デアルト云フコトデアリマス、隨テ歐米各國ノ使臣ガ悉ク參ツテ居ル「デッド」ニモ、日本人ハ一人モ入ルコトガ出來ナイト云フコトデアリマスルガ、若シ然リト致シマスルナラバ、私ガ外

務當局ニ御同致シタイコトハ、假ニ本法律案ニ於キマシテ回教ト云フ文字ガ挿入セラレタ場合ニ、私共ハ世界ニ於ケル回教徒ノ日本ニ對スル同情ガ湧キ起ツテ參リマスル結果、或ハ日本人ノ居住、營業、旅行ニ便利ヲ與ヘルヤウナコトニナルノデハナイカト思フノデアリマス、私ガ外務大臣ニ御同致シタイコトハ、回教ト云フモノニ對シテ日本ガ斯ノ加キ取扱ラスルト云フコトガ、日本ノ外交上ニ關係ガナイモノデアラウカト云フ一點デアリマス、重大ナル關係ガアルノデハナイカト云フコトヲ御同致シタイ次第デアリマス

○清水政府委員 只今鶴見君ノ御質疑ニ御答致シマス、「エーメン」王國ガ條約ヲ締結スル前提ト致シマシテ、回教ヲ公認スル問題ガアツタト云フ風ノ御話デゴザイマシタガ、アノ條約ノ締結ニ付キマシテハ、「アラビヤ」語ヲ以テヤリタイ、所謂「エーメン」王國ガ隣接國トノ條約ニ於テハ悉ク「アラビヤ」語一箇國語ヲ以テヤツテ居ルノデ、是非日本ニ於テモ、サウ云フ風ニシテ貰ヒタイト云フコトデゴザイマシタ日本ト致シマシテハ、「アラビヤ」語ノ外ニドウシテモ日本語ヲ使用シナイ譯ニ行カナイ、是ガ結局不

調ニ終ツタ所以ナノデアリマス、別ニ回教公認云々ト云フコトハ、正式ニ何等ノ話ハナカツタノデアリマス、又回教ニ對シマシテ、外務當局トシテ之ヲ重視シナケレバナラスト云フコトニ付テハ同感デアリマス、少クトモ通商上ニ於テ、或ハ防共ノ關係ニ於キマシテ、總テニ於テ之ヲ重視スベシト云フコトハ先程陸軍大臣其ノ他ノ仰セラレタコトト同感デアリマス、唯此ノ法案ノ中ニ入レルカ入レナイカト云フコトニ付キマシテハ、是ハ文部省ニ關係ガアリマスノデ、私トシテハ此ノ場合答辯ヲ差控ヘタイト思ツテ居リマス

○鶴見委員 只今條約ノ問題ヲ私ガ御尋シタノデハナイノデアリマス、條約ニ關シテハ清水政府委員カラノ御説明モアリマシタガ、併シナガラ「エーメン」國王子自身ノ此ノ點ニ對スル色々ノ御話ガ世間ニ出テ居ルノデアリマシテ、此ノ點ニ關シテ私ハ此處デ敢テ論争ハ致シマセスガ、少クモ世間一般ハ、回教ト云フモノヲ認メナカツタ點ニ付テ遺憾ガアツタノダト承知致シテ居ルノデアリマスカラ、若シ只今ノ政府委員ノ御話ノヤウニ、回教ヲ公認スルト云フコトハ全然關係ガナカツタト云フコトデアラナラバ、ソレハハツキリト天下ニ御聲明ニナル

○清水政府委員 只今鶴見君ノ御質疑ニ御答致シマス、「エーメン」王國ガ條約ヲ締結スル前提ト致シマシテ、回教ヲ公認スル問題ガアツタト云フ風ノ御話デゴザイマシタガ、アノ條約ノ締結ニ付キマシテハ、「アラビヤ」語ヲ以テヤリタイ、所謂「エーメン」王國ガ隣接國トノ條約ニ於テハ悉ク「アラビヤ」語一箇國語ヲ以テヤツテ居ルノデ、是非日本ニ於テモ、サウ云フ風ニシテ貰ヒタイト云フコトデゴザイマシタ日本ト致シマシテハ、「アラビヤ」語ノ外ニドウシテモ日本語ヲ使用シナイ譯ニ行カナイ、是ガ結局不

必要ガアルト思フノデアリマス

次ニ私ハ内務當局ニ御尋フ致シタカツタ  
ノデアリマスガ……

○安藤委員長 内務大臣ハ直キ出席サレル  
サウデス

○鶴見委員 ソレデハ關聯質問ガアルヤウ  
デスカラ、暫ク其ノ方ニ譲リタイト思ヒマ  
ス

○藤田委員 關聯シテ御尋スルノデスガ、  
回教ノ教義ト云フモノハドウ云フモノデア  
リマセウカ、ソレヲ知リタイト思フ、實ハ  
此ノ宗教團體法案ノ第一條ニ回教ヲ入レテ  
與レト云フ猛烈ナ運動ガ院外ニアルノデア  
リマス、私ハ其ノ希望者ニ會ウテ見テ、回  
教ト云フモノハドウ云フ教義デアルノカト  
聽イテ見ルト、其ノ人ハ、外交上三億以上  
ノ信徒ヲ持ツテ居ルモノトノ連繫ヲ保ツト  
云フ意味ニ於テ非常ニ必要ダト云フ、手段  
ノミノ説明デアリマシテ、教義ニ何等ノ理  
解ヲ持ツテ居ラス、申上ゲルマデモナク我  
國ニハ儼乎トシテ國體ガ存シテ居ルノデア  
リマス、サウシテ佛敎ニ致シマシテモ、基  
督敎ニ致シマシテモ、日本ニ參リマシテ相  
當日本化シテシマツテ、我が國體トモ牴觸  
セズ、思想上ノ危險ト云フヤウナモノハ大  
體解消サレテシマツテ居ルモノト私ハ信ジ

マス、回教ノ教義ガ如何ナルモノデアルカ  
サヘモ明確ナル檢討ヲ與ヘズシテ、當局ハ  
之ヲ入レルガ宜イカ、入レナイガ宜イカト  
云フコトヲ仰シヤレル筈ガナイ、回教ノ教  
義ハドウ云フヤウナ教義、眞理ノ下ニ成立  
ツテ居ルカ、ソレハ我が國體トシテ全然差  
支ナイ所ノ御確信ガアルノデアルカ、此ノ  
點ニ對シテ明確ナル御説明ヲ私ハ此ノ機  
會ニ承リタイノデアリマス、時局ニ對シ  
テ、此ノ聖戰ノ目的ヲ達スル爲ニ、有  
ユルモノヲ此ノ方面ニ集中シナケレバナラ  
ヌコトハ、本員モ無論異議ハアリマセヌ、  
此ノ目的ヲ達スルニ便宜ナ方法ガアレバ、  
有ユルコトヲ忍ンデ其ノ方法ヲシナケレ  
バナリマセヌガ、事苟モ信仰ニ關スル以上  
ハ、回教ヲ公認シテ、基督教ヤ佛敎ノ如ク、  
多年我國ニ宣傳サレテ信者ガアリ、日本化  
シテ何等國體ニ牴觸シナイ程度ニナツテ來  
タモノト同等ニ扱フコトニ付テハ、餘程慎  
重ナ態度ヲ取ラナケレバイカスト深ク思ヒ  
マス、陸軍大臣、海軍當局ハ、鶴見君ノ意  
見ニ對シテ同感デアルト云フ御意見ガアリ  
マシタガ、ソレハ既ニ回教ニ對シテ相當ノ  
御理解、御研究ガ積ンダ上デ、國體ニ何等  
心配ガナイト云フ御確信ノ下ニ御發言サレ  
タト深ク信ジマスカラ、私ニ對シテ蒙ラ啓

イテ戴キタイ、切ニ御願致シマス

○安藤委員長 藤田君ニ一寸伺ヒマス、ソ  
レハ今御出席ニナツテ居ル陸軍大臣ニ對ス  
ル質問デスカ

○藤田委員 陸軍大臣、海軍大臣ト文部大  
臣ノ三大臣ニ伺ヒタイ

○安藤委員長 文部大臣ハモウ少シ居ラレ  
マスガ、他ノ大臣ハ忙シイサウデスカラ、  
所管大臣ノ質問ハ成ダケ後廻シニシテ、他  
ノ大臣ニ對スル方カラ質問ヲ願ヒマス

○藤田委員 承知シマシタ

○板垣國務大臣 只今ノ御質問ニ對スル御  
答ハ、文部大臣カラ致ス方ガ適當デアルト  
思ヒマス

○荒木國務大臣 先程ノ鶴見委員ノ御質疑  
ト關聯ハ致シマスガ、回教ノ問題ノミニ重  
點ガ移リマシタノデ、團體法案ノ基礎ニ付  
テモ少シ申上ゲタイト思ヒマス、暫ク御許  
シテ願ヒタイト思ヒマス、回教ノ教義ノ如  
何ハ別ト致シマシテ、我國ノ憲法ニハ明瞭  
ニ信敎ノ自由ヲ御許シニナツテ居ルノデア  
リマス、ソレニ付テハ安寧秩序ヲ害シ、若  
クハ國民タルノ義務ニ背カナイ範圍内ニ於  
テ、如何ナルコトデモ御許シニナツテ居ル、  
是ガ日本ノ非常ニ尊イ所デアル、隨テ回教  
ハ如何ナル教義ヲ持ツテ居テモ宜イ、若シ

ソレガ我國ノ臣民タルノ義務ニ背キ、若ク  
ハ安寧秩序ヲ妨グルコトガアレバ、直チニ  
禁止ヲ命ジ、若クハ其ノ教義ノ一部ニ訂正  
ヲ命ジナケレバナラス、是ハ基督教ニ於テ  
モ、他ノ宗教ニ於テモ同ジデアリマス、斯  
様ナ譯デアリマスノデ、今質疑應答ノ中ニ  
ゴザイマシタヤウニ、回教ガ不安デアルカ  
ラ認メナイト云フコトハ、非常ナ誤リデア  
リマス、是ハ信敎ノ自由ノ上カラ全部御認  
メニナツテ居ルノデアル、今御質疑ガアリ  
マシタヤウニ、若シ其ノ教義ガ我國ノ憲法  
第二十八條ノ制限ニ牴觸シマスルナラバ、其  
ノ時之ニ停止ヲ命ゼラレルナリ或ハ修正ヲ  
セラレテ日本化スルコトニナツテ居ル、斯  
様ナコトデ、第一ノ御心配ノ點ノ、回教ガ  
不安ダカラ認メルカ認メナイカト云フコト  
ハ、之ニ對スル説明ノ足りナイコトト、十  
分ニ團體法案ガ御分リニナラズニ、エーメ  
ントノ關係ヲ御考ニナツテ居ル所カラ來  
ルノデハナイカト思フノデアリマス、決シ  
テ差別ヲシテ居ルノデモナケレバ、制限ヲ  
シテ居ルノデモナイ、此ノ點ハ誤解ノナイ  
ヤウニ茲ニ明瞭ニ申上ゲテ置キマス、我國  
ニ於テハ、憲法第二十八條ノ條項ヲ能ク御  
心得ニナツテ、回教ヲ御布敎ニナツテモ少  
シモ差支ナイノデアル、本法案ガ出來マス

レバ益、其ノ點ガ自由ニナリ、場合ニ依ツテハ免稅ナドノ特別ノ取扱マデモ出來ルヤウニ擴大セラレルノデアリマス、又回教ニ付キマシテハ、私共モ及バズナガラ過去多年ニ互リ努力シ、只今ノ禮拜堂ガ出來ルコトニ付テモ薩ナガラ努力シタ一人デアリマス、回教ソレ自體ガ我國ニ於テ多クノ關係ヲ持ツノデ、此ノ回教ノ教義ヲ奉ジテ居ル各方面ノ民族、又吾々ノ知ツテ居ル同胞アタリガ之ヲ信奉スルコトハ、一方ニハ政策モアリマセウガ、他方亞細亞民族ノ共同的將來ノ平和幸福ヲ圖ル上カラモ必要デアリマセウ、之ニ及バズナガラ私ハ努力シテ來タ一人デアリマス、回教ニ對シテ茲ニ差別スルヤウナ感じハ全然私モ持チマセズ、當事者モソシナコトヲ考ヘテ居ラス、又左様ナコトヲ爲スベキデナイト考ヘテ居リマス、併シナガラ茲デ一ツ考ヘナケレバナリマセヌノハ、宗教團體法ハ非常ニ微妙ナ宗教行政ナルガ故ニ、自主的ニ其ノ行政ヲドコマデモ運營シテ行ク、寧ロ宗教各國體ガ我が國民トシテノ道ヲ誤ナク進ンデ行ク上ニ付テ寄與スル所ガアルヤウニシテ行ク、自主的觀點ニ立ツタモノデアリマス、先程モ申シマシタヤウニ我國ノ宗教行政ハ、列國ニ比ノナイ非常ナ廣大無邊ナ國體ノ内ニ活動

スルモノデアリマスノデ、ドコマデモ自主的ニ考ヘテ行キタイ、隨テ此ノ宗教團體法案ハ、宗教團體ヲ眺メテ茲ニ立案サレテ居ルノデアリマシテ、時局ガ色々要望致シマスコトハ、其ノ中カラ溢レ出テ來タモノニ依ツテ初メテ具現サレマス、茲ニ一時ノ政策ナリ、又其ノ時ニ於ケル國策ナリニ依ツテ、此ノ基礎ノ團體法案ガ左右セラレルトハ、甚ダ以テ人心ノ安定ヲ期スル上ニ付テ遺憾ナコトニナルノデハナイカ、斯様ナ點デ此ノ回教ヲ中心トシテノ我が國民ノ心構ト、宗教團體法案ヲ基礎トシテノ回教ノ問題ハ別個ニ考ヘテ行キタイト考ヘテ居リマス、此ノ點ヲ十分御諒承願ヒマシタナラバ、先程カラノ御質疑モ御諒解出來ルノデハナイカト思フノデアリマス、又回教ノ教義其ノ他ニ付キマシテハ、何レ宗教局長カラ分ツテ居ルダケノコトヲ申上ゲマスガ、先程ノ御質疑ハ、只今申上ゲタコトニ依ツテ概要結論ニ到達シタト存ジマスノデ、御諒承ヲ願ヒマス

○藤田委員 只今ノコトヲ一寸補充シテ置キタイト思ヒマス、私ノ疑義ハ、今文部大臣ヨリ御説明戴キマシタノ一寸趣旨ガ違フノデゴザイマス、鶴見君ノ希望的質問ハ、本法ノ第一條ニ回教ト云フ二字ヲ加ヘ

タイト云フ希望ヲ以テ質問セラレ、政府ノ御意見ヲ徵シタ、ソコデ私ハ疑義ガ起ツタデアリマス、只今文部大臣ノ仰シタルハ、憲法ニ依ツテ宗教ノ自由ヲ與ヘテ居ルカラ何デモ宜イノダ、併シソレガ憲法ニ規定シテアル如キ安寧秩序ヲ妨ゲ、國民ノ義務ニ反スルヤウナコトヲスレバドシ、禁止シテ行クノダカラ、何モ心配ハナイト斯ウ仰シタル、是ハ回教ト云フ二字ヲ加ヘナクテモ、或ハ本法ノ第三條ニ依ツテ認可ヲ求メテ來ル時ニハ、宜シクソレヲ御調ニナツテ然ルベキデアル、所ガ之ヲ條文中ニ入レルト云フト、回教ナルモノノ性質ハ如何、教義ハ如何、是ガ我が民族ノ風習ニ軋シハシナイカ、秩序安寧ニ背キハシナイカ、國民ノ義務ニ背キハシナイカト云フコトヲ調ベナケレバドウシテモ是ハ加ヘラレナイ、今調ベズシテ加ヘテ置イテ、出テ來タ時分ニ詮議スルト云フヤウナコトハ私ハ出來、スト思フ、ソコガ私ノ疑義ニナツテ居ルノデアリマス、唯大臣ノ仰シタルノハ、信教ノ自由ヲ與ヘテ居ルカラ、出テ來タ時ニ調ベテ見テ、ソレガ國民ノ義務ニ背ケバチヤント取締ルカラ心配無イト云フガ、此ノ回教ト云フモノヲ此ノ中ニ入レルコトニ於テ、鶴見君ノ御意

見ハ、三億ノ回教徒ニ對シテ好感ヲ與ヘテ、サウシテ亞細亞大陸政策ノ上ニ非常ニ便宜ヲ得テ、此ノ聖戰目的ノ達成ニ大變ナル利益ヲ得ルデハナイカト云フ御意見ガ基礎ニナツテ居リマス、私ハ此ノ聖戰目的ノ達成、ソコニ集中シテ行ク有ユル便宜ナル手段ヲ採ルト云フコトハ反對シマセスガ、回教ト云フモノノ性質モ分ラズニ之ヲ入レテモ差支ナイカラ、佛教ヤ基督教ノ如ク多年我國ニ於テ行ハレテ居リ、サウシテ檢討濟ノ思想デハナイ、私ハ寡聞ニシテ分リマセヌケレドモ、回教ニハ一夫多妻ト云フコトモアル一夫多妻ノ思想ガ我が帝國ニ流レ込ミデ來タ時分ニハドウナルノデアルカ、斯ウ云フコトハ第一番ニ疑義ヲ生ズル、其ノ他ノ教理ハドウ云フコトカ、本當ノ眞理トシテ信仰サレルノデアルカ、回教ヲ茲ニ加ヘマス以上ハ、日本ノ國民ヲ支配スル所ノ宗教團體法デアリマスルカラ、回教ト云フ信仰ガ日本國民ヲ風靡シテ來ルニ違ヒナイ、即チ日本國民ガ其ノ信仰ノ對象トナルニ違ヒナイ、對象ニナラスノダツタラ加ヘル理由モ必要モナイト私ハ信ズル、果シテ日本國民、吾々同胞ガ澤山回教徒ニナツテ、ソレデ何モ差支ナイカドウデアルカト云フ檢討ガ濟マズシテ、唯外交上便宜ダト云フヤウナ考

デ之ヲ加ヘルト云フコトハ、私ハ輕率ト思

御質問ダケ續ケテ下サイ

ザイマスノデ、明文ニ依ツテ公認セラレテ

云フ文字ヲ此ノ法文ニ明記シタ場合ニ、外交

フノデアリマス、私ハ左様ナ趣旨ヲ御尋シ

○鶴見委員 取締ニ付テハ差別待遇ガナイ

居ナイ宗教ノ取締ニ關スル御意見ヲ伺ヒタ

上便宜デアルカドウカト云フ御尋ヲシタノ

義トカ何トカ云フモノヲ、宗教局長デ十分

ト斯ウ云フ御話デアツタノデアリマスガ、

イ、更ニ只今ノ二ツノ事實ニ付テ御聞及ビ

デアリマスガ、ソレニ付テノ御返事ヲ伺ヒ

デゴザイマスカラ私ニ御教示ヲ願ヒタイ、

現ニ斯ウ云フ二ツノ事實ガアルノデス、ソ

レハ昭和十一年ニ日本ニ參ツテ居リマシタ

タイト思ヒマス

ソレニ依ツテ私ハ卑見ヲ述ベタイト思ヒマ

「シディツキー」ト申シマス相當名前ノ聞エ

○木戸國務大臣 只今御尋ノ二ツノ點ニ付

ガアリマスルノデ、適當ノ機會ニ大臣カラ

ス

マシタ回教徒ガ、輕井澤ノ中村嘉壽君ノヤ

唯回教ニ付キマシテハ別段今日差別待遇ハ

御答辯スルコトニ致シマス

○鶴見委員 只今内務大臣ガ出デニナリ

マシタカラ私ノ質問ヲ續ケタイト思ヒマス、

付キマシテハ、具體的ノ問題デアリマスカ

○鶴見委員 私が只今軍部、外務並ニ内務

只今ノ藤田サンノ御質問ハ是カラ私モ致サ

ウト思ツテ居ツタ點デアリマスルガ、丁度

テハ、回教デアルカラト云フヤウナコトデ

大臣ニ根本的ナ御質問ヲ致シマス前ニ、各

内務大臣ガ御見エニナリマシタカラ、回教

ルカラ許サナイト云フコトデ、是ガ禁止サ

之ヲ特別扱スルト云フ考ハアリマセヌ、是

此處ニ御留メスルコトヲ御氣ノ毒ト存ジマ

ノ只今ノ取締ノ點ニ付テ御尋ヲ致シタイト

レタ事實ガアルノデアリマス、今一ツハ本

等ノ點ハ尙ホ一ツ十分研究致シマシテ、出

ノデアリマス、隨テ私ノ三大臣ニ對スル御

思フノデアリマス、貴族院ニ於ケル委員ト

代々木ノ禮拜堂ニ於テ之ヲ埋葬致サウト致

來ルダケ回教徒ニ面白クナイ感ジヲ起サセ

伺ハ濟ンダノデアリマス、併シ關聯質問ガ

文部大臣並ニ政府委員ノ質問應答ヲ色々拜

シタ時ニ、是ハ認メラレテ居ラナイ宗教デ

ナイヤウニ致シタイト思ヒマス

アリマスナラバナサツテ宜イノデアリマス

見致シテ居リマス、只今マデノ所ニ於

アルカラト云フコトデ、埋葬ノ式ヲシテハ

○鶴見委員 内務大臣ニ續イテ御願ヲ致シ

ガ、唯私ノ委員長ニ御願シタイコトハ、只

テ……

イケナイノデアアルガ、是ハ禮拜堂ノ内デナ

マスガ、斯ノ如キ大臣ノ御趣旨ガ全國ノ地

今藤田君ノ御尋ニナリマシタ回教ノ本質的

○安藤委員長 一寸御話中デ失禮ダガ、陸

軍大臣ハ忙シクテ他ノ委員會カラ迎ヘニ來

方官憲ニ徹底スルヤウナ御取計ヲ願ヒタイ

ノ問題ハ、實ハ是カラ御伺シヨウト思ツテ

テ居ルサウデスガ、アナタノ質問ノ中、陸

ヒデ、棺ヲ半分タケ外ヘ出シテ禮拜ヲシタ

コト、今一ツハ只今モ御伺致シマシタ二ツ

居リ、又私モ多少研究ヲシテ居ツテ質問シ

軍大臣ニ對スル方カラ先ニ願ヒタイノデス

ト云フ事實ガアルノデアリマス、斯ノ如キ

ノ事實ニ付テ、適當ノ機會ニ於テ取調ノ上

ヨウトシテ居ルノデアリマスカラ……

〔加藤委員「私ハ陸軍大臣ニ一寸質問

致シタイ」ト呼フ〕

御話ヲ伺ツテ置キタイノデアリマス

○安藤委員長 アナタノ主管大臣ニ對スル

○鶴見委員 私ハ陸軍大臣ノ方ノ質問ハ濟

待調デナイト云フ御話デアリ、又主管大臣

ソレカラ丁度外務政務次官ガ居デデア

質問ハユツクリ又願ヒマス、唯他ノ大臣ニ

ミマシタ……

ノ御考トシテハ斯ウ云フコトハ無イトシテ

置キマスガ、先程回教ヲ重要視スルコトハ同

對スル他ノ委員ノ方ノ質問ガアリマスカ

○安藤委員長 デハ今ノ内務大臣ニ對スル

締ニ種々手違ヒヲ生ズル、斯様ナコトガゴ

感デアルト云フ御話ガアリマシタガ、回教ト

○鶴見委員 唯ソレガ私ノ主管大臣ニ對ス

ル根本ノ問題ニナツテ参リマスヤウナコト  
ガアルトスレバ、私ノ質問ヲ一遍御聴取リ  
願ツテカラ御質問ヲ願ツタラドウカと思ヒ  
マスガ……

○安藤委員長 加藤君ノハ陸軍大臣ニ對ス  
ル質問ダケデセウ

○加藤委員 サウデス

○安藤委員長 ソレデハ加藤君

○加藤委員 先刻鶴見君ト陸軍大臣トノ質  
問應答ヲ伺ツテ居リマス、回教ヲ宗教團

體法案ニ認ムルト認メザルトハ、日支事變  
ノ收拾策ニ付テ重大ナル關係ヲ持ツモノデ

アル、斯ウ云フ風ニ私ハ承ツタノデアリマ  
ス、若シ是ガ私ノ聴キ誤リデアルトスレバ

是ハ格別デアリマスガ、斯様ニ承ツタノガ  
間違ナイトスレバ更ニ私ハ伺ヒタイ、支那

ニ於ケル道教、喇嘛教、是ハ御承知ノヤウ  
ニ中々勢力侮ルベカラザルモノガアルノデ

アリマスガ、斯ウ云フモノモヤハリ我が宗  
教團體法ニ認ムルト認メザルトニ依ツテ、

日支事變ノ收拾策ニ重大ナル關係ヲ持ツト

御考デアルカ、持タスト御考デアルカ、其  
ノ點ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○板垣國務大臣 先程御質問ニ對シテ御答  
致シタノハ、占領地内、又占領地ノ隣接地

ルカラ、治安其ノ他ニ關係ガアルト云フ方  
面カラノ御尋デアリマシテ、如何ニモサウ  
云フ事實ガアリマスノデ、回教ハ重視スベ  
キモノデアルト云フコトニ付テ御同意ヲ表  
シタ次第デアリマス、喇嘛教トカ其ノ他ノ  
宗教ヲ此ノ宗教法案ニ書クトカ書カナイト  
カ云フコトハ、私ノ御答スル範圍外デアリ  
マス

○加藤委員 日支事變ノ收拾策ト云フ點カ  
ラ言ヘバ、無論是ハ一般的ノコトニナリマス

ケレドモ、併シ占領區域ニハ獨リ回教バカ  
リデハナイ、只今申上ゲマス通り道教、喇  
嘛教ナドモ非常ナ勢力ヲ持ツテ居ルノデア  
リマスカラ、占領區域ニ於ケル治安工作等

ヲ旨クヤラウト云フニハ、獨リ回教徒ノミ  
ヲ此ノ立法ニ認メタカラ宜イト云フコトニ

ハ行クマイと思フ、回教ヲ本法ニ認メルト  
云フコトデアルナラバ、ヤハリ喇嘛教モ道

教モ之ヲ認メナケレバ、私ハ占領區域ニ於  
ケル所ノ治安工作ハ旨ク行カナイデアラ

ウ、斯ウ云フ風ニ考ヘザルヲ得ナイ、回教

ニ付テ之ヲ認メナケレバ重大ナル關係ヲ持  
ツト御考ニナル陸軍大臣ガ、喇嘛教、道教

等ニ付テ答辯ノ限リデナイト仰ツシヤルノ  
ハ、私甚ダ不本意ニ思ヒマスガ、此ノ上御  
追究申上ゲテモ仕方ガナイと思ヒマスカラ、

私ハ唯是ダケノコトヲ申上ゲテ、十分ナル  
御考ト御調べヲ願ヒタイ、斯様ナ希望ダケ  
ヲ申上ゲテ置キタイと思ヒマス、尙ホ私ハ  
文部大臣、外務大臣ニ對シテモ、此ノ回教  
ノ問題ニ付テ是非トモ御伺申上ゲタイノデ  
アリマスケレドモ、併シ只今ハ遠慮致シマ  
シテ、更ニ改メテ御伺申上ゲルコトニ致シ  
マス

○安藤委員長 一寸鶴見君、陸軍大臣ハ忙

シイサウデスガ、モウ宜シウゴザイマスカ  
○鶴見委員 宜シウゴザイマス

○安藤委員長 内務大臣ノ方ニ質問ガアリ  
マスカ

○鶴見委員 モウ宜シウゴザイマス——私  
ハ進シデ文部大臣ニ伺ヒマス、只今藤田君

カラモ根本ノ問題ニ付テノ御質疑アリマシ  
タ譯デスガ、回教ガ日本ニ渡來シテカラ日

ガ淺イト云フコトト、隨テ活動ガ十分デナ  
イト云フコトカラ、果シテ佛教ノ如ク、基

督教ノ如ク本當ニ日本化シテ居ルカドウカ、

其ノ日マデ待チタイト云フコトヲ大臣カラ

御答辯ヲ承リマシタガ、ソレハ私ガ先程申  
上ゲマシタヤウニ程度ノ問題デアルト思ヒ  
マス、ソコデ回教ト云フ二字ヲ入レテ、本  
法案ニ於テ回教ヲ公認スルト云フコトヲ帝  
國ノ方針トシテ確立致スコトニ對シ、本質

的ノ何方故障ガアルカト云フコトヲ御伺致  
シタイと思フノデアリマス、例ヘバ只今藤  
田君ヨリ、回教ノ本質ニ關シテ政府ヨリノ  
御説明ヲ求メラレタノデアリマスガ、其ノ  
中ニ、例ヘバ回教ガ一夫多妻ノ宗教デア  
ルカラ、日本ノ良俗ニ反スルデアラウト云  
フコトニ言及サレテ居リマスガ、此ノ點ニ關  
シマシテハ、勿論「コーラン」中ニハ一夫  
多妻ト云フコトガ書イテアリマスガ、ソレ

ハ信仰簡條デアツテ、回教國ノ法律ヲ見マ

スト、現ニ回教國ノ中心トモ云フベキ「トル  
コ」ノ立法例ヲ見マシテモ、一夫多妻ヲ嚴禁  
シテ居ル、「イラン」ノ國ニ於キマシテモ原

則トシテハ一夫一婦デアツテ、唯暫定的ニ  
過渡の規定ガアルダケデアル、或ハ「エジプ

ト」ニ於テモ事實上一夫一婦デアル、或ハ又  
先般日本ニ來テ居ラレタ「エーメン」王國ノ

王子ノ如キハ、其ノ素行ニ於テ嚴重ナル人  
デアリ、「サウディアラビヤ」ノ國王モ亦嚴

格ナ私生活ヲ送ツテ居ラレルト云フコトデ

アリマス、即チ回教ノ特色ト致シマシテ非

常ニ嚴格ナ禁慾主義ヲ實行シテ居ル、サウ  
シテ非常ニ清潔デアリ、又信義ヲ重ンズル  
ト云フヤウナ點ガアリマスノデ、經典ノ中  
ニ書カレテ居ルコトガ實際上ハ實行サレテ  
居ナイ、居リマス場合ニ於テモソレハ暫定

的ノ過渡規定デアリマス、サウシテ結婚ノ問題ノ如キハ明瞭ニ國內ノ法律上ノ問題デアリマシテ、是ハ如何ナル宗教ガ何處ノ國ニ參リマシテモ、其ノ國法ヲ遵奉スベキコトハ當然デアリマスカラ、若シ斯ノ如キ誤解ガ回教ト云フ文字ヲ挿入スルコトニ對スル難關トナツテ居リマスナラバ、ソレハ今日ノ世界ノ回教教徒ノ實際上ノ事實ト違ツテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、回教ノ本質ニ付キマシテハ、既ニ世界ノ三大宗教トシテ認メラレテ居リ、獨逸ニ於テハ「ケルン」大學以外總テノ大學ニ於テ是ノ講座ヲ持ツテ居ル程研究サレテ居ルニ拘ラズ、東洋ノ一番有力ナル國家デアアル日本ニ於テ、從來回教ニ對スル研究ガ乏シカツタト云フコトダケデモ私ハ洵ニ遺憾ト致スノデアリマス、今日吾々ガ回教ノ本質ヲ此處デ論ジナケレバナラスト云フコトヲ私ハ寧ロ遺憾トスル程ナノデアリマシテ、回教ノ本質ニ付テハ、既ニ基督教、佛教ト同ジヤウニ世界ニ於テ研究シ盡サレテ居ルコトデアラツテ、回教自身ヲ日本ニ於テ公認致シマシテモ、只今文部大臣ノ仰セラレタル如ク、日本ニ於テハ信教ノ自由ヲ一タビ許シテ居ラレル以上ハ、如何ナル宗教ニ對シテ門戸ヲ開クトモ、此ノ健全ナル日本ノ國民精神ヲ

信用スル私共ハ、毫末モ不安ノ念ヲ持タナイノデアリマス、若シ其ノ日常ノ行動ニ於テ國法ニ悖リ、或ハ國ノ方針ニ悖ルモノガアリマスナラバ、是ハ或ハ法律ノ力ニ依リ、警察取締ノ力ニ依ツテ處斷スルコトガ出來ルノデアリマスカラ、其ノ問題ヲ又此處デ議論スル必要ハ餘リナイノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、私ガ文部大臣ニ御伺シタイコトハ、此ノ回教ノ本質ハ既ニ世界ニ明瞭ニナツテ居ルコトデアリマスカラ、此ノ回教ニ關シテ長イ話ヲ伺フヨリハ、回教自身ヲ公認スルコトニ付テ、先程御話ヲ戴キマシタ程度ノコト以外ニ、本質的ナ故障ガアルカドウカト云フコトヲ御伺致シタイノデアリマス

○荒木國務大臣 既ニ御答ラシタト思フノデアリマスガ、本法案ニ於テハ、微妙ナル宗教ノ基礎ヲ考ヘマシテ、信仰ヲ主トシタ點カラ出發シタ人心ノ動キヲ考ヘネバナラスノデアリマス、隨ヒマシテ回教ガ如何ナル教義デアアルカナイカ、ソレヲ實行シテ居ル、實行シテ居ラスノ問題ハ、本法案ニ依リマスレバ宗教結社トシテ第二十三條ノ規定ガアルノデアリマシテ、之ニ依ツテ届出ヲ爲シマスレバ、之レニ障碍ガナケレバ結社トシテ許サレルノデアリマス、更ニ進ン

デ單立教會トシテノ特典ヲ得ヨウト思ヘバ、第六條ニ規定シテアル手續ヲ執レバ認メラレルノデアリマス、更ニ進ンデ或ハ宗教團體トシテノ法人格ヲ得タイトカ、色々ナ點ス、其ノ點ニ付テハ届出デマシタ時ニ、其ノ教義ガ憲法上若クハ本法上違反セザル限リニ於テハ、布教モ儀式モ自由ニ爲シ得ルノデアリマス、ソレハ届出ノ時ニ檢討ラ致シマシテ、差支ナケレバ其ノ儘認可スル、或ハ第六條ノ單立教會トシテ届出レバ、認可制度ニ依ツテ認可スルコトニナツテ居ルノデアリマス、其ノ點ハ少シモ心配ハナイノデアリマス、唯本法ハ何處マデモ信仰ヲ基礎トシタ宗教ノ基礎ニ立ツテ居ルノデアリマシテ、我國ノ憲法第二十八條ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ信教ノ自由ヲ認メ、十分ニ活躍サセタイト云フコトニモ基礎ガアルノデアリマス、同時ニ神社ニ對スル國民ノ信仰ヲ培ヒ、帝國ノ臣民デアアルト云フコトヲ何處マデモ考ヘナケレバナラスト云フコトガ一ツアルノデアリマシテ、我國ニ於テ保護ヲ受ケテ居ル間ハ、今ノ點ヲ行ハナケレバナラスト云フコトガアルノデアリマス、ソレヲ基礎トシテ立案ヲ致シテ居リマスルガ故ニ、今日マデノ國內ニ於ケル宗教活動ヲ見マシテ、其ノ宗教活動ニ依ツテ逐次代表的ノ名稱ヲ彼處ニ掲ゲタノデアリマシテ、「其ノ他ノ宗教團體」ト云フ中ニ一切ノ宗教ノ名稱ガ入ツテ居リマスノデ、此處ニ敢テ回教ト云フ文字ヲ掲ゲマセズデモ、明ニ「其ノ他ノ宗教團體」ト云フ中デ活動ガ出來ルノデアリマス、唯代表的ニ書カナイト云フコトハ、我國ニ於ケル宗教活動ヲ何處マデモ本旨トシタノデアリマス、之ニ對スル歸依心ガ旺盛デアツテ、十萬モ二十萬モ三十萬モノ人ガ眞ニ此ノ宗教ヲ信ズル、本當ニ宗教トシテノ活動ガ起ツタト云フ時ニ、茲ニ初メテ代表的ニ掲ゲルコトニナルノデアリマス、此ノ點ヲ御諒解願ヒタイノデアリマス、回教ノ問題ニ付テ此處デ深ク私ガ申述ベナイノハ、我國ノ將來ノ大陸ニ對スル宗教的活動ニ付テ深ク期スル所ガアリマスカラ、敢テ此ノ回教ナリ其ノ他ノ宗教ノ本質ニ向ツテ兎角ノ批評ヲ致シタクナイ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマスカラ、冒頭カラ申述ベマシタヤウニ、回教ソレ自體ガ善イ惡イト云フヤウナコトハ考ヘテ居ラスノデアリマシテ、他ノ宗教ト同ジヤウニ世界ノ宗教トシテ十分之ヲ認メテ居ルト云フコトヲ御諒承下サツタナラバ、能ク私共ノ申述ベルコトガ御分リ下サルデアラウト思

ツテ居リマス、ソレ以上此處デ申上ゲル  
コトハ——今内務大臣初メ皆御歸リニナツ  
タヤウデアリマスケレドモ、私ハ此處ニオ  
出デニナル時ニ十分申上ゲタイト思ツテ居  
ツタノデアリマスガ、是ハ別ノ機會ニ於キ  
マシテ十分ニ申述べタイト思ヒマス

#### ○鶴見委員

只今ノ文部大臣ノ御答辯デ、

其ノ言外ノ御心持ハ能ク了承致シマシタ、

即チ私ノ了解スル所ニ依レバ、本質的ニ惡

イモノデアレバ、届出其ノ他ニ依ツテ法人

トナリ教團トナルコトハ出來ナイノデアリ

マスカラ、其ノ御趣旨ハ分ツタノデアリマ

ス、唯殘ル問題ハ、程度ノ問題デアツテ、

十万人、或ハ二十万人ニナレバ認メル、サウ

デナケレバ之ヲ明記シナイト云フ問題ニ押

詰ツテ參ツタヤウデアリマス、隨テ是レ以

上之ニ付テ公ニ大臣ニ御伺スルコトハ、今

大臣ノ御話ニナリマシタヤウニ、種々ナル

影響ヲ派生スルコト云フ御心配ガアルヤウデ

アリマスカラ私ハ是レ以上本質論ニ付テハ

御質問致シマセヌ、唯私ハ最後ニ希望ヲ申

添ヘテ置キマス、只今大臣ハ繰返シテ、「其

ノ他ノ宗教」ト云フモノデ包含サレテ居ルト

云フ御話デアリマスケレドモ、私共ガ貴族

院ノ速記録ヲ拜見致シマシテモ、腑ニ落ち

ナイ所ガアルノデアリマス、只今内務當局

ニモ御尋致シマシタヤウニ、取扱上ニ於テ  
モ地方々々デ異ツテ來ル、或ハ免稅ノコト  
ニ付テハ將來適用ガアルノダト云フコトデ  
アリマスケレドモ、適用ガアル爲ニハ前提  
ノ條件ガ要ル、即チ第六條ノヤウナ活動ガ  
出來タラ免稅スルト、大藏大臣モ貴族院ノ

本會議デ述べテ居ラレマス、隨テ「其ノ他」ト

云フ所デ全部平等ノ取扱ニナリ兼ねルヤウ

ナ、技術的ナ困難ガ殘ツテ居ルヤウニ思フ

ノデアリマスガ、是レ以上此ノ問題ヲ續ケ

マシテモ如何カト存ジマスカラ、私ハ適當

ノ機會ニ又大臣ノ御意見ヲ伺フ時ガアラウ

ト存ジマス、私ノ質問ハ是デ終了致シマス

#### ○作田委員

今ノ文部大臣ノ御説明ト鶴見

君ノ御質問トノ間ニ不明ナ點ガ出來タノ

デ、一寸伺ツテ置キタイノデアリマスガ、本

會議カラ續ケテ言ハレテ居ル所ノ回教ノ問

題ハ、第一條ノ「其ノ他」ニ入ルト云フ意

味ハ、是ハ現在ニ於テハ入ツテ居ナイト云

フコトニナルノデスカ、現在入ツテ居ルト

云フノデスカ、換言スレバ結社ト云フモノ

ニナルノデスカ、結社ト云フモノハ言フマ

デモナク第一條デハナイ、第一條ニ包含シ

テ居ラヌノガ結社デアル、第二十三條ノ結

社ニ入ルト云フコトニナルト、第一條ニハ

入ラナイ、ダカラ第一條ニ入レルノダト云

フコトハ將來ノ問題デアツテ、只今ハ入ラ  
ス、斯ウ云フコトニナルノデハナイカ、詰  
リ只今ノ御答辯ニ依リマス第一條ノ「其ノ  
他」ニ入ル、ト言ハレル、サウスルト詰リ回  
教ハ只今入ツテ居ルヤウニ聞エル、ソレハ  
ドウ云フ風ニ扱フカト云フコトハ別デアリ  
マスケレドモ、其ノ點ヲハツキリサセテ戴

キタイ

#### ○松尾政府委員

本法ノ第一條ハ謂ハバ御

約束デゴザイマシテ、本法ニ於テハ宗教團

體ト云フ名前ガアツチコツチニ使用サレテ

居リマスガ、宗教團體ト云フノハ、神道ノ

教派、佛教ノ宗派、基督教其ノ他ノ宗教ノ

教團、竝ニソレ等ニ所屬スル寺院教會ヲ謂

フノダト云フ約束デゴザイマス、隨テ御承

知ノ通り神道ニ付キマシテハ既ニ現ニ十三

派ゴザイマス、隨テ教派ハ本法施行ノ際ノ

利那ヲ考ヘマス、十三ノ教派ガアル譯デ

アリマス、佛教ニ付キマシテモ亦御承知ノ

通り、本法施行ノ其ノ利那ニ於テハ五十六

ノ宗派ガアル譯デゴザイマス、所ガ今日ノ

宗教法規カラ申シマス、教團ト云フモノ

ハ認メテ居リマセヌ、隨テ本法ガ實施ニ相

成リマシテ施行ニ相成リマスレバ、其ノ利

那ニ於テハ教團ト云フモノハ無イ譯デアリ

マス、ダカラ只今御話ノ回教デ申シマスナ

ラバ、其ノ利那ニ於テハ一應ハ結社ト云フ  
モノニ相成ラウト思フノデアリマスガ、段  
段文部大臣モ仰セラレタ通りニ、其ノ實力  
ヲ吟味スルコトニ依ツテ、第六條第二項第  
五號ノ教會ニモナリ得ルヤウナ次第デアリ  
マス、又第三條ニハ教團ノ途モ開イテ居ル、

斯ウ云フヤウニ仰セニナツタ譯デアリマス、

本法施行ノ利那ニ於テハ教團ト云フモノハ

一ツモ無イ譯デアリマス

#### ○作田委員

能ク分リマシタ、詰リ回々教

ノ教團ト云フモノデナクテ、苟モ文部省ノ

稱スル結社ト云フモノハ、第一條ニ入ラナ

イモノハ、モウ全部、淫祠邪教ミタイナモ

ノモ皆結社ニ入ルノデアル、其ノ中ノ一ツ

トシテ回教モ入ルト云フコトデ、回教ヲ取

上ゲテ「其ノ他」ノ中ニ入レルト云フコトハ、

結局御説明ニナラスト云フコトニナリマス、

本法施行ノ利那ニ於テハ……

#### ○松尾政府委員

神道ガ全國的ノ團體ヲ組

織スル場合ニハ教派デアリマス、佛教ガ全

國のノ包括團體ヲ組織スル場合ニハソレヲ

宗派ト謂ヒマス、神佛以外ノ基督教ヲ初メ

トシテ諸々ノ宗教ガ我國ニ全國的ノ團體ヲ

作ル、例ヲ申シマスナラバ大社教トカ全光

教ト云ツタヤウナ全國的團體、或ハ天台宗

トカ曹洞宗ト云ツタヤウナ綜合的團體ノ如

ク、基督教其ノ他ノ宗派ガ團體ヲ作ルト云フナラバ、其ノ全國的ノ團體ヲ名ヅケテ教團ト言フノデアリマシテ、將來ニ於テ回教ガ天台宗、日蓮宗、曹洞宗、或ハ金光教、天理教ト云ツタヤウナ工合ノ全國的團體ヲ組織スルコトニ至リマシタ場合ハ、其ノ他ノ宗教「ト云フ觀念ニ依ツテ解釋サレマシテ教團ト成リ得ル、斯ウ云フ譯デアリマス

○立川委員 一寸關聯シテ極ク簡單ニ御質問致シマス、先刻鶴見君ノ御質問中ニ公認ト云フヤウナ御言葉ガアリマシタ、實ハ私

ノ宅ヘモ、院外ノ團體ノ諸君ガ見エタノデアリマスガ、其ノ諸君モ公認トカ非公認トカ云フ言葉ヲ使ツテ居ルノデアリマスガ、此ノ宗教ノ公認、非公認ト云フモノガ是マデアツタノデスカ、又此ノ法律ガ出來テ公認、非公認ト云フ區別ガ出來ルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ

○松尾政府委員 段々文部大臣カラモ御話ニナリマシタヤウニ、我國ニ於キマシテ公認、非公認ノ區別ハ、宗教行政ニ於テハ取ツテ居ナイノデアリマス、即チ憲法第二十八條ニ依リマシテ、有ユル宗教ニ其ノ處ヲ得セシメテ居ルノデアリマス、其ノ中若モ安寧秩序ヲ妨ゲ、臣民タルノ義務ニ背イタナラバ是ハ排撃致シマスガ、然ラザル場合ニ於キマシテハ、先程大臣モ仰セラレタ通

リニ、ソレハ其ノ處ヲ得セシメテヤツテ居ル次第デアリマス、隨テ其ノ中カラ特ニ優遇スベキ歴史沿革ヲ持ツテ居ル團體ハ、或ハ教派ト稱シ、或ハ宗派ト稱シ、或ハ寺院ト稱シ、教會ト稱シテ特殊ノ地位ヲ與ヘ、之ニ優遇ヲシテ居ル、斯ウ云ツタヤウナ事實ニ相成ツテ居リマス

○立川委員 私モサウ思ヒマス、所ガ世間

ノ一部ニハ確カニ其ノ誤解ガアツテ、是ガ院外ノ運動ノ主タル問題ニナツテ居ルヤウデアリマス、甚ダ此ノ點ハ遺憾デアリマス、其ノ點ハ何カノ方法ヲ明瞭ニサレル必要ガアルト思フノデアリマス、尙ホ餘事カモ知レマセヌガ、大臣ノ貴族院ニ於ケル最後ノ日ノ御答辯ハ、一寸不明瞭デ、サウ云フ風ナ誤解ヲ招キハシナイカト思ハレルヤウナ節ガアルヤウニ感ゼラレマス、先刻鶴見君モ其ノ點ニ觸レラレマシタガ、衆議院ニ於テ何カノ機會ニ明瞭ニサレマシタナラバ、此ノ問題ハ案外容易ニ解決ガ出來ルノデハナイカト考ヘマス

○荒木國務大臣 段々問題ガ廣汎ナ爲ニ色色ニナルノデアリマスガ、回教ソレ自體ニ對シテノ問題ト、我國ニ於ケル回教ノ例ヘバ教會トカ、或ハ回教ノ其ノ他ノモノノ各種ノ組織トカ云フヤウナモノトハ、是ハ別個ニナルノデアリマシテ、宗教上ノ回教ト

シテハ、ソレハ當然ニガイケナイトカ宜イト云フコトハ言フベキ限リデハナイノデアリマス、我ガ國內ニ於ケル活動ニ於テ、其ノ回教ノ教義ノ中ニ若シ憲法第二十八條ニ牴觸スルヤウナコトガアリ、或ハ公益ヲ害スルヤウナコトガアレバ、始メテ茲ニ制限ガ加ハルノデアリマシテ、其ノ寺院、今ノ教會其ノ他ガマダ其ノ體ヲ具ヘテ居ラナイ間ニ、之ヲ我國ニ於ケル回教ノ教團ナリトシテ認

メテ行クコトハ難カシイ、ソレガ今ノ公認、非公認ノ話ニナツタノデアラウト思ヒマス、此ノ點モ誤解ノナイヤウニシテ戴キタイト思ヒマス、隨テ今ノ回教ノ連中ガ頻リト心配サレマスケレドモ、回教ハソレ自體ヲ我國ガ否認シテ居ル譯デモナケレバ、又之ニ對シテ妨害ヲシテ居ル譯デモナイ、回教ソレ自體憲法第二十八條ニ依ツテ、我國ニ布教シ、我國ニ弘メタイト云フナラバ、進ンデ布教シテ宜シイノデ、是ガ憲法第二十八條ニ牴觸シナイ範圍内ニ於テハ、國內ノ悉クノ人心ヲ捉ヘテオヤリニナツテモ差支ナイノデアリマス、其ノ程度如何ニ依ツテ茲ニ神道、佛教、基督教ト掲ゲタノデア

ツテ、決シテ他意ハナイノデアリマス、其ノ點ハ貴族院ノ説明ニ於テモ、代表的ニ掲ゲタ以外ノモノハ第一條ノ「其ノ他ノ宗教」ノ中ニ入ツテ居ルト、斯ウ明瞭ニ御答シタヤ

ウニ思ウテ居ルノデアリマスガ、若シ誤ツテ居レバ其ノ點ハ十分明ニシタイト思ウテ居リマス

○加藤委員 私モ一寸之ニ關聯シテ御尋シ

タイ、洵ニ畏多イ話デアリマスガ、或者ガヤハリ此ノ回教ヲ本法案ノ中ニ認メテ貰ヒタイ、斯ウ云フ話ヲ致シマシタ、其ノ際ニ或ル貴イ御方ガ此ノ回教ノコトヲ非常ニ御心配遊バサレマシテ、自分カラ文部大臣ニ話ヲシテ置カウト云フコトヲ仰シヤツタト申シ、其ノ貴イ御方ノ御名前マデモ申シテ居リマシタカラ、私モ存ジテ居リマスガ、ソレハ實ニ畏多イコトデアリマスカラ申上ガマセヌケレドモ、左様ナ事實ガアリマスカドウカ、ソレ程マデニ貴イ御方ガ御心配遊バサレルト云フコトニナルト、吾々トシテモ實ニ恐懼ニ堪ヘナイ次第デアリマス、此ノコトニ付テ若シ御伺スルコトガ出來マスレバ御伺致シタイ、併シ御答ニナルコトニ御差支ガアレバ強ヒテ御伺スルコトハ致シマセヌガ、此ノ場合特ニ申上ゲテ置キマス

○荒木國務大臣 今初メテ御話ヲ承ツタノデ、私ハ能ク承知致シテ居リマセヌ  
○安藤委員長 本日ハ是デ教會致シマス、明日ハ午前十時カラ委員會ヲ續開致シマスカラ、ドウゾ御承知ヲ願ヒマス  
午後三時五十一分散會